赤坂泰彦が様々な人・モノ・コトをリポート!

連載 Vol. 6

ジャパンオープンを終え、CUE'S CUPについて考える

赤坂泰彦が、ビリヤード界の多様なトピックから、
毎回気になるものをピックアップして取材!
連載第6回は、国内最大のオープン戦『第35回ジャパンオープン』を終え、
赤坂が感じたもの、そして来春行われる『CUE'S CUP』へ期待を込め、
実行委員会へ直撃した模様をお届けする。

白熱のジャパンオープン戦いをより「魅せる」演出とは

10月末の『ジャパンオープン』、凄まじい試合の連続で幕を閉じましたね。

私も現地で観戦させてもらいましたが、選手たちが作り出す会場全体をも包み込むような緊迫感、これぞ日本最高峰の試合だというものを感じさせてくれました。

3年ぶり、しかも安全面に気を遣わなくてはならない、まだまだ制限がある中での難しい開催、大会関係者の方々は最大限の尽力をされておられたと思います。

しかし私が長年エンターテイメントやイベントなどに携わってきからかもしれませんが、その会場でいくつか感じたことがあります。

まず今回は、会場の一番奥にメインテーブルが設置されましたが、一番良い席であると思われる最前列の椅子席からだと、ちょっとテーブルが見えにくかったんじゃないかな、という点です。2列目以降の方もどうしても前の方の間からテーブルを覗くような感じになっているように見受けられました。ジャパンオープンという一大イベントを楽しみに来場した方が残念な思いをされていなかったか気がかりでした。

やはりビリヤードの試合、イベントなので、いかに現場で『見やすいか』って重要だと思うんですよ。試合こそ醍醐味ですからね。

あとはタイムスケジュールに関して。これはいちファンとして、選手に負担にならないようにしてほしいな、見る側にとっても少しでも見やすいものであってほしいなという思いです。現地でご覧になってない方には少々掴みづらい内容かもしれませんが、今回の大会でいうと試合前のインタビューの件です。

最初に司会の方が出てきて趣旨説明をする、開会主催の挨拶をする、始球式をやって、「ドーン」と音が鳴って選手が出てくる、選手が集まって写真を1枚撮ったらすぐテーブルに向かってもらう、そこで2分間の練習があるので、練習していない選手にインタビューをすればスムーズじゃないか、選手も登場してからテーブルに着くまでは早い方が良いのではないかな、と感じたという話です。

当然色んな事情を加味しての日程だとは思うのですが、開催の日程も、特設会場の前に一度休みを入れてあげられないかな、なども感じますし、選手がベストパフォーマンスを発揮できる環境というものをもう少し準備してあげられたら良いなと感じます。

そして、会場のことでもう1つ、BGMや音楽に関して。これこそ職業病と言われればその通りなのですが（笑）、同じ音楽がずっとループされていると、どうしてもスーパーマーケットを感じてしまうんですよ（笑）。

バスケットボールや野球の試合を観たことがある読者の方なら想像できるかと思いますが、音のミュートのタイミングや変化、効果音などで、いくらでもシーンに影響を与えられますよね。

例えばですが、ボールがデッドになった時には音を流して、プレーが始まったら絞る、と言ったメリハリがあるだけでも少し雰囲気を変えられると思います。

音源に関しては、東京中にミックスができるDJがいますから、「ビリヤードで使えるカッコイイ音源作ってくれ!」って言ったらいくらでも作ってくれますしね。

もっと思い切ったことをするとすれば「Let's go! Let's go ○○!」みたいな人工の音声を流したり、「Good safety!」や「シンジラレナイ!」とかの掛け声を流しても面白そうですよね（笑）。

あなたはどっち派!? エンタメ or厳粛

多少飛躍した話になりますが、読者の皆さんはビリヤードの試合をどのような雰囲気で楽しみたいですか?

今までのような厳粛で張り詰めたような緊張感が良いんだという方もいらっしゃると思いますし、反対にもっとエンターテイメントとして、イベントとして一緒に盛り上がれるような試合を楽しみたいという方もいらっしゃると思います。

ビリヤードの試合をイベントとして捉えた時、一番大切なのはお客さん、ファンの方にどう見えるか、そしてそれがちゃんと広がっていくかということだと思います。

前々号で書かせてもらいましたので詳しくは割愛させて頂きますが、30年前にバレーボールのW杯が開催された際に、「F1の古舘さん、バレーの赤坂のようにしたい」と言って頂いたことがありました。最初はイメージが掴めなかったんですが、プロデューサーの方の熱意に心が動いて試合のMCをさせてもらったというお話なのですが。

その時はジャニーズのV6がデビューということで当然会場はそれ目当ての方だらけだったのですが、何がすごかったかって、そのV6ファンの子達が試合が

10月23日（日）、東京・竹芝の『ニューピアホール』で行われた『第35回ジャパンオープン』。写真は会場奥に設置されたメインテーブル。

Host

赤坂泰彦

あかさか・やすひこ

ラジオDJ・司会・俳優
Twitter　@djakasaka59

【出演番組】
NHK FM『ラジオマンジャック』
（毎週土曜16:00〜18:00）
www4.nhk.or.jp/rmj/
BS日テレ『歌謡プレミアム』
（毎週月曜20:00〜20:54）
www.bs4.jp/premium/onair/
voicy『赤坂泰彦のラジオグラフィティー』
（毎週水曜21:30〜/22:00〜生配信）

始まったら大迫力のプレーを目の当たりにしてバレーボールのファンになって盛り上がってる訳です。そこからバレーボールは人気も回復できましたしね。

この時に感じたのは、プレイベント的なものは、会場に来てもらったり、プレーを見てもらうキッカケ、橋渡しにはなり得ますが、やっぱり最後は「プレー」で魅了することの大切さです。如何に試合の臨場感を感じられるか、熱が伝わってくるか、魅力を伝えられるか、「ビリヤードの試合って実はこんなに面白いじゃん！」という驚きを与えられるか、これにかかってくると思います。

もちろんファンが盛り上がるだけではなく、選手にもリスペクトを持ち、良い影響がなくてはいけないと思うのですが、今回のジャパンオープンでも感じさせてくれたように、ビリヤードにはしっかりとその潜在的な魅力があると思っています。

新たな試み『CUE'S CUP』に訊く

私としては、どんな形でやってみるにしろ、新しい試みとしてエキシビションのような試合を開催するというのは非常に有意義だと思うのですが、ここでまさに新しい試合『CUE'S CUP』を催そうとしている実行委員会の方がこの雑誌にいるではないですか（笑）！　ということで、次節からはその実行委員会の方へ直撃インタビューをした模様をお届けします（笑）。

【赤坂（以下、赤）】CUE'S CUPって初めて開催されますよね。その動機はどこにあったんですか？

【実行委員会（以下、実）】きっかけとしましては、コロナで試合が開催できない中で、JPBAさんとCUE'Sが協力して何かできないだろうか、という話が持ち上がったことです。その話自体はかなり前に出ていたのですが、どんどん状況も厳しくなり、正直何もできない期間が続いてしまいました。そうしているうちに、公式戦が再開されるようになり、選手の活躍の場が徐々に戻りつつありますが、まだ全開とは言い難い状況です。海外では、『マッチルーム』を始めとして世界的プールムーブメントが巻き起ころうとしている中、日本がその波に乗れているかと言うと……。いよいよマズイ、本当にビリヤードが衰退してしまうという危機感が大きくなってきて、ついに動き出せた、といったところです。

【赤】関係各所、どんな反応がありました？

【実】正直言うと、なかなか渋い反応をされる場面もありました。もっと時期を見て海外勢を呼んだ方が盛り上がるんじゃないか、などの意見を頂いたこともあります。ですが、何より今やれることの中で、頑張って最高のものを作ることが大事なのではないかと考えた結果、開催することに決断しました。やってみないとわからないことも多々あると思いますし、そこから来年、またその次とブラッシュアップしていくというのも良いのではないか、と考えています。

「日本のプロは世界の舞台でも活躍し得る」。世界に挑戦する環境づくりも、今後の日本のビリヤード界にとって重要なファクターと言える。

【赤】非常に素晴らしい決断だと思います。選手にとってもモチベーションに繋がりますよね。僕自身、海外選手はなしの日本人の頂点を決めるという大会があれば良いなと思っていたんです。そもそもサッカーだったらW杯、野球だったらWBCとか日本シリーズといったような、絶対的なアイコンがないというのがビリヤード業界の難しいところだと思うんですよ。みんなの目標、価値観がひとつじゃないんですよね。

【実】おっしゃる通りだと思います。競技スポーツとしてだけではなく、趣味として自分でプレーするなど、多種多様な楽しみ方があるのはビリヤードの魅力だと思いますが、何かに向かってみんなでひとつになるというのが非常に難しいと感じます。

【赤】私も、コロナ渦が明けていくかどうかもわからない現状の中、個々ができる限りのことをして、みんなが「ビリヤードはなくならないよ」という価値観のもとで、ひとつになることが必要だと強く感じています。そういったメッセージにおいて、シンボルとしてもこの「CUE'S CUP」はすごく意義のあるものだと思います。

【実】ありがとうございます。逆インタビューになってしまいますが、赤坂さんから見て、この試合に求められるものって他にどういうものがあると思われますか？

【赤】やっぱりお客さんは本気のバチバチの試合が見たいと思いますよ。「Breaking Down」じゃないですが、「東は大したことねえな」「西は口だけだろ」みたいな煽りがあっても面白いですよね（笑）。選手の皆さんは紳士なので難しいとは思いますが、そのくらい本気になってくれるかがカギになりますよね。もうひとつ、ファンの方は普段見られないものが見たいと思います。トッププロのガチのペアマッチも面白いと思いますし、毎年1試合は往年のプレイヤー同士が戦うレジェンドマッチみたいなものや、ランキングが低迷している人、つまりネクストジェネレーションの選手同士の試合を設けても良いですね。せっかく特設会場を作る訳だから、様々なことにチャレンジしたくなりますよね。

【実】その案、頂いてもいいでしょうか（笑）。

【赤】あと興味深いと思ったのはクラウドファンディングですね。クラウドファンディングって参加してくれた方がお値段以上の利を得ないといけないじゃないですか。もっと言えばお金集めではいけないというか。この「CUE'S CUP」は、企画次第で参加してくれた方の期待に応えられるものにできると思います。だから応援という訳ではないですが、みんなの気持ちをひとつにして、チャレンジに参加しようという方向に向かってくれたら良いですよね。賞金が多い方が選手も燃えると思いますし、様々な企画もやりやすくなりますしね。

【実】あと狙いとしては、クラウドファンディングを通して「高額賞金の試合をビリヤードがやってるらしいぞ」、みたいなことをネットニュースなどでどうにか取り上げてもらえないかと画策しています。今までビリヤードを知らなかった方たちに「そもそもビリヤードにプロがいるんだ」「それすら知らなかったけどこんなに賞金が出るんだ」「会場はこんなに盛り上がってるんだ」など、そういった印象を持って頂けたら最高だと思っています。

【赤】バグースさんならではのラグジュアリーな雰囲気も伝えられますし、ビリヤードの新たな側面を見えてもらいたいですね。オンラインでも配信するんですか？

【実】配信は無料で行おうと思っています。さらにメインと副音声を用意して、初めてビリヤードに触れる方も経験者の方も見応えを感じてもらえるようにする予定です。今までの用語すらわからない人は置いてきぼり、といったような放送を変えていけたらと思います。

【赤】今、初めてビリヤードに触れる人の話が出ましたが、その方達にはどういったことを訴求していこうと思ってますか？

【実】今回のイベントは第一歩目なので、真っ当に最高のモノを見えてもらう、これに尽きると思います。これは個人的な見解になりますが、なぜ人がスポーツに魅せられるかというと、すごい奴がすごいことしているからだと思うんですよ。

【赤】そうですよね、ビリヤードが上手い、ビリヤードのプロとしてやっていってるって実はすごいことなんですよね。だからこそ、それがいまいち報われない、ビリヤードという競技の魅力を伝えられていない現状に歯がゆくなりますね。

●　●　●

今回お話をさせてもらって感じたのは、「CUE'S CUP」が我々ビリヤードに携わる人を代表して第一歩を踏み出してくれたということ。この機会に我々は垣根を超えて、一度同じ方向を向いて気持ちをひとつになれたらな、と願います。私もできる限りの協力は必ずしますし、ぜひ皆さんと『ビリヤード』を盛り上げていきたいです。来年の1月21日〜22日、そしてその先の未来に向けて一緒に頑張りましょう！　そして読者の皆さん、クラファンもよろしく（笑）！

晴天の下、とは言い難いが、日本のビリヤード界の未来について青写真を語り合った2人。

Guest

CUE'S CUP実行委員会

Billiard CUE'S CUP JAPAN POOL CHAMPIONSHIP
Twitter　@CUES_BAB

『株式会社BABジャパン（ビリヤードCUE'S 編集部）』が中心となり、『日本プロポケットビリヤード連盟（JPBA）』と綿密に連携を取りながら2022年7月に発足。大会企画とともに告知、運営を行う。

【大会概要】
■開催日時　2023年1月21日〜22日（土・日）
■会場　THE BAGUS PLACE
■競技種目　ナインボール
■試合形式　8名によるシングルイリミネーション
※詳細はP@@〜